

文献目録

九州探題関係文献目録

— 今川了俊 —

川添 昭二・朱雀 信城 共編

【凡例】

- 一 九州探題は九州中世史を縦断する中核的課題を担っており、その研究は日本中世史研究に重要な位置を占める。同時に九州探題はおおむね大宰府・博多を拠点に室町幕府の地方支配の支翼を成していたので、大宰府研究にとっても重要問題であり、その研究史の整理は今後の研究推進にとって不可欠である。
- 今回分の今川了俊は九州探題として九州南朝勢力を制圧し、室町幕府の基礎作りに大きな役割を果たしている。中世の和歌・連歌史に不朽の名を残している文化人でもある。九州探題関係から今川了俊関係を別出するのは、頁数の問題と共に、今川了俊が日本中世史・九州中世地域史に大きな役割を果たしていることにも由る。
- 一 現在、今川了俊研究は、政治・外交・文化等それぞれ活発な研究が行われており、貴重な史料の紹介も相次いでいる。さらに、文化ことに文学関係研究は数多く、編者の管見に入らないものも少なくはあるまい。政治関係でも九州南朝その他各別に掲出すべきものも多く、それらは別途掲出が試みられるべきであろう。間接的なものは省略している。
- 一 本目録は川添の作成にかかる文献目録カードを朱雀が整理・補訂したものである。
- 一 今川了俊以外の九州探題関係は次号を期している。

作者	表 題	出 典 (発行所) 新	年月
近藤瓶城校	今川記	『史籍集覧 続群書類従合戦部 1』、のち1902.05、近藤主造が『改定史籍集覧』13として、1984.02、臨川書店より復刻	1881.12
	今川了俊和歌所江不審条々〔二言抄〕・了俊弁要抄・落書露顯	『群書類従』10 (経済雑誌社)、のち1934.04、続群書類従完成会より16輯として復刻	1894.05
	応永記・難太平記	『群書類従』14 (経済雑誌社)、のち1931.12、続群書類従完成会より21輯として復刻	1894.05
	今川大双紙	『群書類従』14 (経済雑誌社)、のち1928.11、続群書類従完成会より22輯として復刻	1894.05
安藤正次	歌人としての今川了俊	女鑑 159、のち同『安藤正次著作集4 記・紀・万葉集論考』(雄山閣出版、1974.01)に再録	1898.06
石澤發身	今川貞世	史学界 2・10・11・12	1900.10~12
渡辺世祐	足利時代の山陽道	歴史地理 4・8・9・10	1902.08~10
永山卯三郎	渡辺文学士の「足利時代の山陽道」中せいやまに就て	歴史地理 4・12	1902.12
	今川系図	『続群書類従』5上 (続群書類従完成会)	1904.06
	空華集 大慈八景詩歌集叙	上村観光編『五山文学全集』2 (装華房書店)、のち1936.04、帝国教育会出版部より、1973.02、思文閣出版より復刻、1992.11再版	1906.01
	今川了俊制詞	『日本教育文庫 家訓篇』(同文館)	1910.04
田中元勝	『肥後文献叢書6 征西大將軍宮譜』	(隆文館)	1910.08

九州探題関係文献目録（川添・朱雀）

藤田明	【征西將軍宮】	(宝文館)、のち非売品として復刻(1915.12)、文献出版より復刻(1976.03)	1915.06
飯島茂	蟻打戦場の所在に就て	筑紫史談 21、のち1971.08、福岡県文化財資料集刊行会より復刻	1919.07
田中義成	【足利時代史】	(明治書院)	1923.04
	今川家譜・今川記・今川了俊同名仲秋へ制詞条々	【統群書類従】21上(統群書類従完成会)	1923.07
	了俊大草紙	【統群書類従】24上(統群書類従完成会)	1925.02
	今川了俊書札札	【統群書類従】24下(統群書類従完成会)	1925.05
瀬野馬熊	今川大内二氏と朝鮮との関係	朝鮮史学 1・2・3、のち同『瀬野馬熊遺稿』(瀬野いと、1936.10)に再録	1926.01・02・03
渡辺世祐	【関東中心足利時代之研究】	(雄山閣)、のち1936.04雄山閣より復刊、1971.07新人物往来社より改訂新版、1995.11改訂版	1926.06
静岡市役所	【静岡市史編纂資料】1	(静岡市)、のち1977.12、歴史図書社より復刊	1927.04
	【静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告】4・5・7	(静岡県)	1928.03、1929.03、1931.03
小島吉雄	了俊の歌論に関する覚書	国語国文の研究 25	1928.10
石割松太郎	「今川了俊」の初演年月に就いて	同『人形芝居雑話』(春陽堂)、のち1933.10、更正閣より同『人形芝居の研究』として改訂版	1930.10
	難太平記	【新校群書類従】17(内外群書株式会社)	1930.12
秋山謙蔵	室町初期に於ける九州探題の朝鮮との通交	史学雑誌 42-4	1931.04
秋山謙蔵	室町初期に於ける倭寇の跳梁と九州探題	歴史地理 57-4	1931.04
静岡市役所	【静岡市史】1	(静岡市)、のち1973.08、名著出版より復刻、1979.05改訂版	1931.06
石川謙	【教育倫理講座3 日本近世教育史】	(中文館書店)	1931.10
	今川了俊制詞	加藤咄堂編『国民思想叢書 士道篇』(大東出版社)	1931.11
後藤丹治	【岩波講座日本文学 日本文学書目解説(四) 室町時代】	(岩波書店)	1932.03
静岡県史編纂委員会編	【静岡県史料】1~5	(静岡県)、のち1966.11、角川書店より、1994.04臨川書店より復刻	1932.03~1941.03
斎藤清衛	【南北朝時代文学新史】	(春陽堂)、のち1972.12、一部を同『古川叢書 南北朝時代文学通史』(古川書房)として復刻	1933.04
斎藤清衛	南北朝時代の二歌人の作家生活(了俊と耕雲)	日本短歌	1935.04
松原三夫	招月庵正徹伝攷抄 一~承前※本来は十五	水滸22-6・7・9・10・12、23-2・4・12、25-1・2・7・9~12	1935.06~1938.12
斎藤清衛	【近古時代文芸思潮史(応永・永享篇)】	(明治書院)	1936.01
石川謙	今川状	城戸幡太郎編輯代表『教育学辞典』1(岩波書店)	1936.05
青木茂	今川貞世の西下と道ゆきぶり	備後史談 12-6	1936.06
瀬野馬熊著、中村栄孝等編	【瀬野馬熊遺稿】	(瀬野いと)	1936.10
野村晋城	中世に於ける毛利氏の所領	歴史地理 71-2	1938.02
正宗敦夫編	【日本古典全集 言塵集】	(日本古典全集刊行会)	1938.05
吉原敏雄	和歌史講話21 革新派の系列 耕雲・了俊・正徹	むらさき 5-9	1938
頼原退蔵	了俊の言葉	多磨 7-10	1939

三井高陽	今川了俊自筆本「鹿苑院殿殿島詣記」に就て	交通文化 18	1942.04
兒山敬一	今川了俊の道の自覚	歴史と国文学 28-4、のち同『今川了俊—その武士道と文学—』(三省堂、1944.06)に再録	1943.04
兒山敬一	心敬と為秀・了俊・正徹	国語と国文学 20-5、のち同『今川了俊—その武士道と文学—』(三省堂、1944.06)に再録	1943.05
兒山敬一	今川了俊の万葉学	歴史と国文学 29-5・6、のち同『今川了俊—その武士道と文学—』(三省堂、1944.06)に再録	1943.12
能勢朝次	九州問答(二条良基連歌論)評釈(一)~(十五) ※本来は十六	国文学解釈と鑑賞 9-4~8・10~12、10-1・2・4・6~12合併号、11-1~3・5、のち同『能勢朝次著作集7 連歌研究』(思文閣出版、1982.07)に再録	1944.04~1946.05
兒山敬一	『今川了俊—その武士道と文学—』	(三省堂)	1944.06
宮内府図書寮編	源氏六帖抄・道行触	同編『図書寮典籍解題 文学篇』(国立書院)	1948.10
石川謙	『古往来についての研究—上世・中世における初等教科書の発達—』	(講談社)	1949.08
後藤陽一	「難太平記」の場合	広島文理科大学史学科教室編『史学研究記念論叢』(柳原書店)、のち同『近世村落の社会史的研究』(溪水社、1982.11)に再録	1950.10
松本旭	今川了俊と源氏物語	埼玉大学教育学部研究論集 1、のち同『連歌と俳諧—了俊・心敬から芭蕉・一茶へ—』(本阿弥書店、2007.10)に再録	1952.03
尾形裕康	今川状について	石川謙博士還暦記念論文集編集委員会編『石川謙博士還暦記念論文集 教育の史的展開』(講談社)	1952.04
小島憲之	由阿・良基とその著書—中世万葉学の一面—	『万葉集大成2 文献篇』(平凡社)、のち1986.06新装版	1953.08
八島長壽	歌論書「明月記」考	国語 2-2・3・4	1953.09
伊地知鐵男編	『連歌論集』上	(岩波書店)	1953.10
田中裕	定家仮託書の批判	国語国文 22-10	1953.10
磐田市誌編集委員会編	『磐田市誌』上	(磐田市)、のち1987.03、臨川書店より復刊	1954.03
大津有一	今川了俊の講釈	同『伊勢物語古註釈の研究』(宇都宮書店)、のち1986.02、八木書店より増訂版	1954.03
金子金治郎	中世作家と地方文学—今川了俊の九州探題時代—	広島大学文学部紀要 7、のち「連歌の地方伝播」と改題して、同『新撰菟玖波集の研究』(風間書房、1969.04)に、「今川了俊の連歌論」と改題して、同『金子金治郎連歌考叢Ⅲ 連歌論の研究』(桜楓社、1984.06)に再録	1955.03
青山公亮	『明治大学文学部研究報告 東洋史3 日麗交渉史の研究』	(明治大学)	1955.08
渡部保	西行の歌の評価について—中世歌論書を中心として—	佐賀龍谷学会紀要 3	1955.12
荒木尚	今川了俊覚書	法文論叢 8、のち「了俊の伝記覚書」と改題の上、大幅に増補して、同『今川了俊の研究』(笠間書院、1977.02)に再録	1956.05
伊地知鐵男編	『今川了俊歌学書と研究』	(未刊国文資料刊行会)	1956.09
荒木尚	了俊における歌論の形成—「歌言・唯言」をめぐって—	季刊文学・語学 3、のち「了俊歌論の形成と意義」と改題して、同『今川了俊の研究』(笠間書院、1977.03)に再録	1957.03
	和歌所へ不審状々(二言抄)、了俊—子伝(弁要抄)、落書露顯、師説自見集(抄)	佐佐木信綱編『日本歌学大系』5(風間書房)	1957.07
長谷川強	『今川当世状』の成立—江嶋其礎時代物考序説—	国語国文 26-7	1957.07
田中裕	師説自見集と了俊相伝定家歌論書	語文 20、のち「師説自見集をめぐって—近代秀歌の諸形態—」と改題して、同『中世文学論研究』(端書房、1969.11)に再録	1958.06
荒木尚	冷泉歌論の系譜—今川了俊の所説を中心として—	日本文学 7-7、のち同『今川了俊の研究』(笠間書院、1977.03)に再録	1958.07
川添昭二	今川了俊の南九州経営と国人層—永和三年十月—揆神水契状の分析を中心として—	九州史学 10	1958.11

九州探題関係文献目録（川添・朱雀）

田中裕	毎月抄批判—一つの偽書説—	大阪大学文学部編「大阪大学文学部創立記念論叢」(大阪大学文学部)、のち同「中世文学論研究」(塙書房、1969.11)に再録	1959.03
桜井好朗	難太平記考—太平記をめぐる文献的交渉の—前提—	日本歴史 132、のち同「中世日本人の思惟と表現」(未来社、1970.06)に再録	1959.06
水上甲子三	新資料 落書露頭(その一)(その二)(その三)	国文学言語と文芸 14・5・6、のち「落書露見」(彰考館本)と改題して、同「中世歌論と連歌」(全通企画出版、1977.08)に再録	1959.07・09・11
田中裕	仮名本詠歌大概をめぐる—了俊と頼阿との場合—	語文 22、のち「仮名本詠歌大概」と改題して、同「中世文学論研究」(塙書房、1969.11)に再録	1959.08
井上良信	太平記論ノート	文学 27-9	1959.09
水上甲子三	「落書露頭」成立試考	季刊文学・語学 14、のち同「中世歌論と連歌」(全通企画出版、1977.08)に再録	1959.12
川添昭二	室町幕府成立期における政治思想—今川了俊の場合—	史学雑誌 68-12	1959.12
松本旭	今川了俊の生涯と作品	埼玉大学紀要(教育学部編)8・9合併号、のち同「連歌と俳諧—了俊・心歌から芭蕉・一茶へ—」(本阿弥書店、2007.10)に再録	1960.03
井上豊	道ゆきふり・鹿苑院殿巖嶋詣記	『群書解題』11(統群書類従完成会)	1960.07
釘本久春	今川了俊和歌所江不審条々(二言抄)・落書露頭・了俊弁要抄	『群書解題』9(統群書類従完成会)	1960.11
平田俊春	難太平記	『群書解題』13(統群書類従完成会)	1960.12
川添昭二編	『今川了俊関係編年史料 上・下—九州探題史料ノ二—』	(私家版)	1960.12、1961.02
重松信弘	『源氏物語研究叢書Ⅱ 新光源氏物語研究史』	(風間書房)、のち1980.10増補版	1961.03
池田富蔵	師説自見集	『群書解題』10(統群書類従完成会)	1961.03
久松潜一	今川了俊の生涯と和歌	同『和歌史3 中世和歌史』(東京堂)	1961.08
井上宗雄	『中世歌壇史の研究 室町前期』	(風間書房)、のち1984.06改訂版	1961.12
木島甚久	麻生山城に関する資料	八幡市文化財調査報告 7	1962.03
水上甲子三	了俊歌論の性格	国文学言語と文芸 43、のち同「中世歌論と連歌」(全通企画出版、1977.08)に再録	1962.05
桑島禎	今川了俊書札札	『群書解題』15(統群書類従完成会)	1962.09
井上豊	了俊大草紙	『群書解題』15(統群書類従完成会)	1962.09
石村貞	今川大双紙	『群書解題』16上(統群書類従完成会)	1962.11
三輪正胤	「竹園抄」の成立に関する二、三の問題	名古屋大学国語国文学 12	1963.03
川添昭二	九州探題今川了俊の文学活動—中世文化論のための一素材として—	九州文化史研究所紀要 10、のち「今川了俊の教養形成」九州探題今川了俊の文芸活動と改題して同「平凡社選書71 中世文芸の地方史」(平凡社、1982.01)、同「中世九州の政治・文化史」(海鳥社、2003.07)に再録	1963.10
瀬野精一郎	尊氏・直冬・了俊の国人組織策	日本歴史学会編『人物叢書附録』117、のち同「歴史の陥穽」(吉川弘文館、1985.06)に再録	1964.06
川添昭二	『人物叢書 今川了俊』	(吉川弘文館)、のち1988.07新装版	1964.06
稲田利徳	正徹の伝記をめぐる二、三の問題—新資料「永享九年正徹詠草」をてがかりとして—	国文学 34、のち「永享九年詠草」と改題、大幅に改稿して、同「正徹の研究—中世歌人研究—」(笠間書院、1978.03)に再録	1964.06
水上甲子三	了俊歌論書「歌林」について—解題にかえて—	国文学言語と文芸 6-6、のち同「中世歌論と連歌」(全通企画出版、1977.08)に再録	1964.11
水上甲子三	歌林	国文学言語と文芸 6-6、のち「今川了俊著『歌林』(彰考館蔵)」と改題して、同「中世歌論と連歌」(全通企画出版、1977.08)に再録	1964.11
水上甲子三	<書評>川添昭二氏著『今川了俊』を読み、あわせて、拙稿「落書露頭成立試考」の誤謬を正す	国文学言語と文芸 7-3、のち同「中世歌論と連歌」(全通企画出版、1977.08)に再録	1965.05

川添昭二	今川了俊	笠原一男編『室町幕府 その実力者たち』(人物往来社)、のち一部補筆の上、「九州探題今川了俊」と改題して、同『中世九州の政治と文化』(文献出版、1981.06)に再録	1965.07
井上宗雄	【中世歌壇史の研究 南北朝期】	(明治書院)、のち1987.05改訂新版	1965.11
川添昭二	今川了俊	豊田武編『人物・日本の歴史5 内乱の時代』(読売新聞社)	1965.11
川添昭二	【日本の武将18 菊池武光】	(人物往来社)	1966.06
山口隼正	南北朝期の大隅国守護について(上)(中)(下)	九州史学35・36・41、のち「大隅国守護」と改題して、同『南北朝期九州守護の研究』(文献出版、1989.03)に再録	1966.09・12、 1967.10
松岡久人	【大内義弘 日本の武将20】	(人物往来社)	1966.10
細谷直樹	初期冷泉家歌学の性格	国語国文 35-12、のち補筆の上、「初期冷泉家歌学と定家」と改題して、同『中世歌論の研究』(笠間書院、1976.09)に再録	1966.12
谷山茂	為家書札とその妖艶幽玄体一附、越部禪尼消息等の伝本ならびに紫明抄のことなど	文林 1、のち同『谷山茂著作集 1 幽玄』(角川書店、1982.04)に再録	1966.12
細谷直樹	了俊は愚見抄をいつ披見したか	国語と国文学 44-2、のち同『中世歌論の研究』(笠間書院、1976.09)に再録	1967.02
箕俣彦	今川了俊愚息仲秋制詞条々	同『中世武家家訓の研究 参考編』(風間書房)	1967.05
田村洋幸編	【日麗関係編年史料 高麗史・高麗史節要】	(峯書房)	1967.05
山口隼正	南北朝期の薩摩国守護について	史学雑誌 76-6、のち「薩摩国守護」と改題して、同『南北朝期九州守護の研究』(文献出版、1989.03)に再録	1967.06
田村洋幸	【中世日朝貿易の研究】	(三和書房)	1967.09
佐藤進一	【室町幕府守護制度の研究 上・下—南北朝期諸国守護沿革考証編—】	(東京大学出版会)	1967.09、1988.11
山口隼正	南北朝期の肥前国守護について	鹿大史学 15、のち「肥前国守護」と改題して、同『南北朝期九州守護の研究』(文献出版、1989.03)に再録	1967.11
島津忠夫	今川了俊と梵灯庵一良基連歌の継承をめぐって—	広島中世文芸研究会編『中世文芸叢書別巻1 連歌とその周辺—金子金治郎博士還暦記念論文集—』(広島中世文芸研究会、1967.12)、のち同『連歌史の研究』(角川書店、1969.03)、同『島津忠夫著作集3 連歌史』(和泉書院、2003.11)に再録	1967.12
長谷川端	太平記における細川清氏	軍記と語り物 5	1967.12
福田以久生	松浦党の「有浦文書」について	日本歴史 240	1968.05
山口隼正	大宰府安楽寺天満宮領研究の一視点—筑前国々衙職・代官請負制を中心に—	九州史学 42、のち同『中世九州の政治社会構造』(吉川弘文館、1983.05)に再録	1968.12
山口隼正	南北朝期の筑後国守護について(上)(下)	日本歴史 250・251、のち「筑後国守護」と改題して、同『南北朝期九州守護の研究』(吉川弘文館、1989.03)に再録	1969.03・04
川添昭二	遠江・駿河守護今川範国事蹟稿	竹内理三博士還暦記念会編『荘園制と武家社会』(吉川公文館)	1969.06
寺本直彦	中世後期歌壇と源氏物語(一)—今川了俊を中心に—	同『源氏物語受容史論考』(風間書房)	1970.05
寺本直彦	中世後期連歌壇と源氏物語—了俊・梵灯庵・宗仰・心敬—	同『源氏物語受容史論考』(風間書房)	1970.05
稲田利徳	正徹と了俊—師事過程と歌書相伝をめぐって—	国文学攷 54、のち「正徹と了俊」と改題して、同『正徹の研究—中世歌人研究—』(笠間書院、1978.03)に再録	1970.09
福田秀一・佐藤恒雄校注	詠歌一鉢	久松潜一編『歌論集— 中世の文学』(三弥井書店)	1971.02
正木喜三郎	九州に於ける半済の意義—南北朝内乱期に於ける—	九州史学 44・45合併号、のち同『大宰府領の研究』(文献出版、1991.10)に再録	1971.03
佐佐木忠慧	河野信一記念文化館蔵為秀筆『和歌一体』	宮城学院女子大学研究論文集 39、のち同『中世歌論とその周辺』(桜楓社、1984.10)に再録	1971.03
長谷川端	難太平記	【日本の古典15 太平記】(河出書房新社)	1971.08

九州探題関係文献目録（川添・朱雀）

加美宏	【太平記抜書】の類ノート（続）—太平記の と享受と研究にふれて—	学苑 381、のち「島津家本『太平記』異文抜書ほか」と改題して、同『太平記享受史論考』（桜楓社、1985.05）に再録	1971.09
山口隼正	南北朝後期、今川氏の肥後国支配について	鹿大史学 19、のち「肥後国守護」と改題して、同『南北朝九州守護の研究』（文献出版、1989.03）に再録	1971.12
杉山次子	難太平記の諸本について	軍記と語り物 9	1972.03
杉山次子	<歴史手帖>京大谷村文庫本「難太平記」 の太平記作者に関する記事	日本歴史 287	1972.04
秋本太二	遠江に於ける守護領国支配の推移—とくに 遠江今川氏の没落を中心として—	地方史静岡 2	1972.07
田村洋幸	室町前期の日朝関係—十四世紀末～十五 世紀前半における偽使を中心として—	福尾教授退官記念事業会編『日本中世史論集』（吉川弘文館）	1972.07
石井進・石母 田正・笠松 宏至・勝俣鎮 夫・佐藤進一 校注	【中世政治社会思想上 日本思想大系21】	（岩波書店）	1972.12
藤井隆	源氏・狭衣物語古筆切について	愛知大学国文学会編『久曾神昇博士還暦記念 研究資料集』（風間書房）	1973.05
島津忠夫解題 下草		天理図書館善本叢書和尚書之部編集委員会編『天理図書館善本叢書和尚書之部7 連歌論集』（八木書店）	1973.07
杉山元衛編	静岡県史関係雑誌論文目録	地方史静岡 3	1973.08
武田元治	「流通物」考—今川了俊の歌論をめぐる —	国語・国文解釈 19-10、のち同『中世歌論をめぐる研究』（桜楓社、1978.01）に再録	1973.10
市原陽子	室町幕府の段銭について（Ⅰ）（Ⅱ）—主 として幕府段銭を中心に—	歴史学研究 404・405	1974.01・02
中田武司	今川了俊筆源氏物語（空蟬巻）の新資料 攷	平安文学研究 52	1974.07
瀬野精一郎編	【九州地方中世編年文書目録 南北朝時代 篇】	（吉川弘文館）	1974.10
観泉寺史編纂 刊行委員会編	【今川氏と観泉寺】	（吉川弘文館）	1974.11
杉浦明平	今川了俊—文武両道の達人—	【人物探訪日本の歴史4 争乱の群雄】（暁教育図書）	1974.12
荒木尚	「歌詞」「只詞」の世界—了俊の著作をめ ぐる—	法文叢書 35、のち同『今川了俊の研究』（笠間書院、1977.03）に再録	1975.02
川添昭二	北山文化への一試論—朝山梵灯（師綱） を例として—	史淵 112、「連歌師朝山梵灯の政治活動」として、同『中世・九州の政治文化史』（海鳥社、2003.07）	1975.03
山口隼正	南北朝期の筑前国守護について	国史学 95、のち同『中世九州の政治社会構造』（吉川弘文館、1983.05）、「筑前国守護」と改題して、同『南北朝九州守護の研究』（文献出版、1989.03）に再録	1975.03
杉山元衛	今川氏関係論文目録	今川氏研究会編『駿河の今川氏1 今川氏十代の歴史と文化』（静岡谷鳥屋）	1975.03
荻野三七彦編 著	【関東武士研究叢書4 吉良氏の研究】	（名著出版）	1975.05
中世吉祥道	【三重県郷土史料叢書65 伊勢愛洲氏の研 究】	（三重県郷土資料刊行会）	1975.09
稲田利徳	応永期の正徹—伝記と作品—	国語国文 44-9、のち補訂の上、「応永期」と改題して、同『正徹の研究—中世歌人研究—』（笠間書院、1978.03）に再録	1975.09
小和田哲男	今川氏の代替りと内訌	地方史静岡 5、のち同『小和田哲男著作集1 今川氏の研究』（清文堂出版、2000.11）に再録	1975.10
玉懸博之	室町政権の確立・完成と政治思想—足利 義満治世期をめぐる—	日本思想史研究 8、のち同『日本中世思想史研究』（ぺりかん社、1998.10）に再録	1976.03
秋本太二	駿河守護今川氏の所領について	信濃 28-5	1976.05
村井章介	今川了俊と上松浦一揆	日本歴史 338、のち同『中世の国家と在地社会』（校倉書房、2005.12）に再録	1976.07
米原正義	【戦国武士と文芸の研究】	（桜楓社）	1976.10
福田以久生	【駿河相模の武家社会】	（清文堂）、のち2007.04修正再版	1976.11

伊地知鐵男	今川了俊一座の千句、第五百韻の一卷	連歌俳諧研究 52、のち同『伊地知鐵男著作集Ⅱ<連歌・連歌史>』(汲古書院、1996.11)に再録	1977.01
田中新一	正徹の出家年時—正徹研究ノート—	国語と国文学 54-3	1977.03
今枝愛眞・村井章介	日明交渉史の序幕—『明国書并明使仲歇無逸尺牘』を中心に—	東京大学史料編纂所報 11、のち他論文と統合再編成して、同『アジアの中の中世日本』(校倉書房、1988.11)に再録	1977.03
荒木尚	『今川了俊の研究』	(笠間書院)	1977.03
水上甲子三	『中世歌論と連歌』	(全通企画出版)	1977.08
柴原永遠男	海路と舟運	八木充編『古代の地方史 2 山陰・山陽・南海編』(朝倉書店)	1977.09
静岡県立中央図書館資料課編	静岡県関係古文獻目録	地方史静岡 7	1977.11
山下宏明	解説 太平記を読むにあたって	『新潮日本古典集成 太平記1』(新潮社)、のち『『太平記』の成立』と改題して、同『軍記物語の方法』(有精堂出版、1983.08)に再録	1977.11
川添昭二	<書評>荒木尚著『今川了俊の研究』	国語国文学研究 13	1978.02
稲田利徳	『正徹の研究—中世歌人研究—』	(笠間書院)	1978.03
村上豊喜	中世後期の守護権力と地方権門—大内氏と宇佐宮を中心に—	日本史研究 190	1978.06
荒木尚	歌人たち—今川了俊—	日本文学 27-7	1978.07
荒木尚	『万葉集』と了俊	伊地知鐵男編『中世文学 資料と論考』(笠間書院)、のち同『中世文学叢考』(和泉書院、2001.03)に再録	1978.11
大塚勲	駿河守護今川氏の駿府進出について	今川氏研究会編『駿河の今川氏』3(静岡谷島屋)、のち『今川範国・範氏の駿河守護所』と改題・改稿して、同『今川氏研究余録』(私家版、2008)に再録、「駿河守護今川氏の初期守護所」と改題・改稿して、同『岩田選書地域の中世5 今川氏と遠江・駿河の中世』(岩田書院、2008.11)に再録	1978.12
山口準正	南北朝期の豊前国守護について	東京大学史料編纂所報 13、のち同『中世九州の政治社会構造』(吉川弘文館、1983.05)、「豊前国守護」と改題して、同『南北朝九州守護の研究』(文献出版、1989.03)に再録	1979.03
高野修	由阿の伝と詞林采葉抄	時宗教学年報 7	1979.03
川添昭二他	今川大双紙・今川貞臣・今川貞世・今川氏・今川状・今川仲秋・今川範国	『国史大辞典』1(吉川弘文館)	1979.03
石毛忠	中世における歴史意識をめぐる対立	今井淳・小澤富夫編『日本思想論争史』(べりかん社)	1979.05
新川哲雄	中世における文芸理論と美意識の対立	今井淳・小澤富夫編『日本思想論争史』(べりかん社)	1979.05
岸田裕之	備後国山内氏一族と南北朝の動乱	歴史公論 5-9	1979.09
長倉智恵雄	広島大学所蔵『今川家古文章写』の再検討	今川氏研究会編『駿河の今川氏』4(静岡谷島屋)、のち同『戦国大名 駿河今川氏の研究』(1995.09)に再録	1979.12
小木早苗	今川氏の遠江支配	今川氏研究会編『駿河の今川氏』4(静岡谷島屋)	1979.12
伊井春樹	『源氏之雜説抄物』(『師説自見集』所収) 翻刻	紫式部学会編『古代文学論叢 7 源氏物語及び以後の物語 研究と資料』(武蔵野書院)	1979.12
村井章介	室町幕府の最初の遣明使について—『雲門一曲』の紹介をかねて—	今枝愛眞編『禅宗の諸問題』(雄山閣)、のち他論文と統合再編成の上、「日明交渉史の序幕」と改題して、同『アジアのなかの中世日本』(校倉書房、1988.12)に再録	1979.12
瀬野精一郎編	『南北朝遺文九州編』1~7	(東京堂出版)	1980.01~1992.09
織田顕信	仏海禅師—峯明—とその周辺	仏教文化研究所紀要 2	1980.03
川添昭二・柳町知彌・島津忠夫編	『太宰府天満宮連歌史 資料と研究』I	(太宰府天満宮文化研究所)	1980.03

九州探題関係文献目録（川添・朱雀）

加美宏	物語僧小考—「大塔物語」所出の頼阿をめぐって—	國學院雑誌 81-3、のち同『太平記享受史論考』（桜楓社、1985.05）に再録	1980.03
高橋貞一	難太平記	同『太平記諸本の研究』（思文閣出版）	1980.04
山口隼正	「御料所」「探題領」管見	鹿児島中世史研究会報 39、のち同『中世九州の政治社会構造』（吉川弘文館、1983.04）に再録	1980.06
有川宜博	<豊前興国寺文書>—色直氏書状について	西日本文化 163	1980.07
長谷川強	改題本「今川当世状」考	国語国文 49-8	1980.08
酒井貞次	今川氏の水軍に関する覚書	今川氏研究会編『駿河の今川氏』5（静岡谷鳥屋）	1980.12
大森北義	今川了俊—その文化的個性の特徴—	日本文学 29-12	1980.12
鳥津忠夫	太宰府天満宮連歌史	川添昭二・棚町知彌・鳥津忠夫編『太宰府天満宮連歌史 資料と研究』Ⅱ（太宰府天満宮文化研究所）、のち同『鳥津忠夫著作集6 天満宮連歌史 付、法楽連歌ほか』（和泉書院、2005.01）に再録	1981.03
袋井市史編集委員会	【袋井市史史料編1 古代中世】	（袋井市）	1981.03
川添昭二	歴史探訪 水島の陣	瀬野精一郎編『日本歴史展望5 分裂と動乱の世紀』（旺文社）	1981.07
小和田哲男	南北朝の内乱	静岡市役所編『静岡市史 原始古代中世』（静岡市）、のち同『小和田哲男著作集3 武将たちと駿河・遠江』（清文堂出版、2001.07）に再録	1981.11
宮井義雄	太平記 付難太平記	同『日本の中世思想』（成甲書房）	1981.12
川添昭二	【平凡社選書71 中世文芸の地方史】	（平凡社）	1982.01
中原町史編集委員会	【中原町史】上	（中原町）	1982.03
	【今川了俊筆源氏物語空鐘巻（複製）専修大学図書館蔵古典籍影印叢刊】	（専修大学出版局）	1982.05
伊井春樹	了俊の「伊予切」について	専修大学図書館蔵古典籍影印叢刊刊行会会報 8	1982.05
木下政雄	今川了俊筆—源氏物語断簡（伊予切）の意義—	専修大学図書館蔵古典籍影印叢刊刊行会会報 8	1982.05
有吉保	二言抄・了俊一子伝・了俊歌学書	【和歌文学辞典】（桜楓社）	1982.05
川添昭二	猛烈武将の悲劇なにゆえに 今川了俊の九州探題罷免をめぐる	熱田公責任編集『日本史の舞台5 室町絢爛の日々』（集英社）、のち「今川了俊の九州探題罷免と応永の乱」と改題して、同『九州の中世世界』（海鳥社、1994.04）に再録	1982.07
高橋伸幸	古筆切考証—源氏物語切—	史料と研究 12	1982.08
川添昭二	九州探題と九州守護	歴史公論 8-8、のち同『九州の中世世界』（海鳥社、1994.04）に再録	1982.09
川添昭二	今川了俊の対外交渉	九州史学 75、のち「九州探題今川了俊の対外交渉」と改題して、同『対外関係の史的展開』（文献出版、1996.03）に再録	1982.10
小和田哲男	【駿河今川一族】	（新人物往来社）	1983.01
服部英雄	相良氏と南九州国人一揆	歴史学研究 514	1983.03
玉村竹二	大喜法析	同『五山禅僧伝記集成』（講談社）	1983.05
川添昭二	九州探題今川了俊と松浦党	松浦党研究 6、のち大幅に加除して、同『九州の中世世界』（海鳥社、1994.04）に再録	1983.06
田中新一	巖島詣記	【日本古典文学大辞典】1（岩波書店）	1983.10
米原正義	今川大双紙・今川了俊書札礼	【日本古典文学大辞典】1（岩波書店）	1983.10
石川松太郎	今川状	【日本古典文学大辞典】1（岩波書店）	1983.10
羽下徳彦	桜雲記	【日本古典文学大辞典】1（岩波書店）	1983.10

袋井市史編纂 委員会編	【袋井市史 通史編】	(袋井市役所)	1983.11
木藤才蔵	九州問答	【日本古典文学大辞典】2 (岩波書店)	1984.01
新井栄蔵	顕註密勘	【日本古典文学大辞典】2 (岩波書店)	1984.01
田中進一	言塵集	【日本古典文学大辞典】2 (岩波書店)	1984.01
川添昭二	九州探題	【国史大辞典】4 (吉川弘文館)	1984.02
竹内理三・川 添昭二編	【大宰府・太宰府天満宮史料】12	(太宰府天満宮)	1984.03
田中新一	師説自見集	【日本古典文学大辞典】3 (岩波書店)	1984.04
長谷川端	【太平記】の成立と守護大名	中世文学 29	1984.05
長谷川端	難太平記	【日本古典文学大辞典】4 (岩波書店)	1984.07
田中新一	二言抄	【日本古典文学大辞典】4 (岩波書店)	1984.07
林達也	二八明題和歌集	【日本古典文学大辞典】4 (岩波書店)	1984.07
荒木尚	「光源氏巻々注少々」とその周辺	寺本直彦編著『源氏物語とその受容』(右文書院)、 のち同『中世文学叢考』(和泉書院、2001.03)に再録	1984.09
伊井春樹	了俊筆「源氏物語」の本文と書入注の性 格一付・伊予切捨遣一	寺本直彦編著『源氏物語とその受容』(右文書院)、 のち同『源氏物語論とその研究世界』(風間書店、 2002.11)に再録	1984.09
笠松宏至	一通の文書の「歴史」	神奈川県史研究 18、のち同『平凡社選書86 法と言葉の中世史』(平凡社、1984.09)に再録、 1993.12、平凡社ライブラリー32として復刊	1984.09
加美宏	『難太平記』の『太平記』関係記事一『太 平記』享受史の一章一	太平記研究 8、のち『『難太平記』一『太平記』の 批判と読み一』と改題して、同『太平記享受史論考』 (桜楓社、1985.05)に再録	1984.10
渋谷虎雄	万葉集時代考	【日本古典文学大辞典】5 (岩波書店)	1984.10
田中新一	道ゆきぶり	【日本古典文学大辞典】5 (岩波書店)	1984.10
河合正治	【安芸毛利一族】	(新人物往来社)	1984.11
上田純一	薩摩渋谷氏の禪宗受容について一南北朝 期を中心として一	日本歴史 441、のち同『九州中世禅宗史の研究』(文 献出版、2000.10)に再録	1985.02
田中新一	落書露頭・了俊歌学書・了俊弁要抄	【日本古典文学大辞典】6 (岩波書店)	1985.02
米原正義	了俊大草紙	【日本古典文学大辞典】6 (岩波書店)	1985.02
金子金治郎	了俊下草	【日本古典文学大辞典】6 (岩波書店)	1985.02
吉井功兒	遠江守護沿革小考一建武政権の国守・守 護および室町・戦国期の守護一	今川氏研究会編『駿河の今川氏』8・9 (静岡谷島屋)	1985.03
太田順三	肥前国一宮河上社をめぐる造営の変遷一 河上社神殿造立棟札の墨書銘の研究(そ の一)一	【肥前史研究】(三好不二雄先生傘寿記念誌刊行会)	1985.03
寺田弘	【難太平記】にみる今川了俊の思想(上) (下)	今川氏研究会編『駿河の今川氏』8・9 (静岡谷島屋)	1985.03、1986.02
小澤富夫訳	今川状	同訳『講談社学術文庫 家訓一今に生きる処世の 極意一』(講談社)	1985.04
伊藤喜良	九州探題	井上光貞・永原慶二・児玉幸多・大久保利謙編『日 本歴史大系2 中世』(山川出版社)、のち1996.01 同編『日本歴史大系普及版5 南北朝内乱と室町幕 府(上)』として復刻、【九州探題をめぐる】と 改題して、同『中世国家と東国・奥羽』(校倉書房、 1999.02)に再録	1985.05
橋本芳和	応安年間に於ける対明外交の一考察一南 北朝内乱最末期にみる天台座主尊道法親 王の機能一	政治経済史学 232	1985.09
川添昭二	宇佐宮と九州探題今川了俊	日本歴史叢書月報 37	1985.10

九州探題関係文献目録（川添・朱雀）

島内裕子	中世武家家訓と徒然草	国語と国文学 63-1	1986.01
赤沢敏彦	【後鑑】所収静岡県関係史料について	今川氏研究会編『駿河の今川氏』9（静岡谷島屋）	1986.02
荒木尚	歌林・言塵集・師説自見集・道ゆきふり・落書露見・了俊・了俊一子伝・了俊歌学書・了俊日記	『和歌大辞典』（明治書院）	1986.03
荒木尚	今川了俊—南北朝内乱と文人武将—	熊本大学学生部編『熊本大学放送講座 熊本一人とその時代—』（熊本大学）、のち1993.04、工藤敬一編『熊本大学市民セミナー 熊本一人とその時代—』（三章文庫）として復刻	1986
荻野三七彦	春日社と成功	日本歴史 464	1987.01
松尾千歳	鳥津義久筆『在叢集』	尚古集成館紀要 1	1987.03
川添昭二・棚町知彌・鳥津忠夫編	【太宰府天満宮連歌史 資料と研究】Ⅳ	（財団法人太宰府顕彰会）	1987.03
田中博美	武家外交の成立と五山禅僧の役割	田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』（吉川弘文館）	1987.04
	二言抄・了俊一子伝・落書露頭	新編『国歌大観』編集委員会編『新編国歌大観5 歌合編、歌学書・物語・日記等収録歌編 歌集』（角川書店）	1987.04
長節子	【戊午叢書 中世日朝関係と対馬】	（吉川弘文館）	1987.06
川添昭二	九州探題今川了俊の軍事活動—応安四年～応安七年—	岡崎敬先生退官記念事業会編『岡崎敬先生退官記念論集 東アジアの考古と歴史』下（同朋舎）	1987.11
岩坪健	師説自見集「光源氏巻々注少々」の成立過程—冷泉家における「策明抄」の撰取—	詞林 2、のち「冷泉家と今川了俊—河内学派との対立—」と改題して、同『研究叢書233 源氏物語古註釈の研究』（和泉書院、1999.02）に再録	1987.11
川添昭二	今川了俊伝稿—九州探題となるまで—	田村圓澄先生古稀記念会編『東アジアと日本 歴史編』（吉川弘文館）	1987.12
川添昭二	南九州経営における九州探題今川了俊の代官	旧記雑録拾遺家わけ一付録 月報 10	1988.01
佐藤陸	今川氏に関する軍記	武蔵野女子大学紀要 23、のち同『義経記と後記軍記』（双文社出版、1999.12）に再録	1988.01
岩坪健	今川了俊の源氏学—「光源氏巻々注少々」から伊予切へ—	詞林 3、のち「今川了俊と青表紙本—「師説自見集」から伊予切へ—」と改題して、同『研究叢書233 源氏物語古註釈の研究』（和泉書院、1999.02）に再録	1988.05
山口隼正	日向・薩摩と今川氏兼・貞継—探題今川氏九州支配末期の一こま—	南北朝遺文九州編月報 5	1988.09
山口隼正	南北朝期の宍岐国守護について	日本歴史 486、のち「宍岐国守護」と改題して、同『南北朝期九州守護の研究』（文献出版、1989.03）に再録	1988.11
松井輝昭	安芸守護今川了俊の分国支配について	広島県立文書館紀要 1	1989.03
恵良宏	皇学館大学所蔵の中世文書	皇学館大学史料編纂所編『創立十周年記念 皇学館大学史料編纂所論集』（皇学館大学史料編纂所）	1989.03
山口隼正	【南北朝期九州守護の研究】	（文献出版）	1989.03
宮武政登	南北朝期の今川氏と駿河守護所	国史学 138	1989.05
佐藤恒雄解説	今川了俊筆 詠歌一鉢	徳川黎明会編『徳川黎明会叢書和歌篇4 桐火桶・詠歌一鉢・綺語抄』（思文閣出版）	1989.07
晋哲哉	鳥津氏の研究—守護領国期を中心に—（上）	鹿児島中世史研究会報 45	1989.07
川添昭二	難太平記	『国史大辞典』10（吉川弘文館）	1989.09
川添昭二	南北朝動乱期の九州	朝日新聞1989年10月26日号～11月28日号、のち朝日新聞福岡本部編『はかた学4 甦る中世の博多』（葦書房、1990.08）、同『九州の中世世界』（海鳥社、1994.04）に加筆して再録	1989.10～1989.11
今岡典和編	【京都大学文学部博物館の古文書5 駿河伊達家文書】	（思文閣出版）	1989.11
金子金治郎	梵灯庵と旅の記	文教国文学 24	1989.12

望月満夫	【明德記】の成立と作者圈	中京国文学 9	1990.03
森田香司	今川了俊の改名と遠江守護—貞治年間の遠江支配—	静岡県地域史研究会報 56	1990.04
堀川貴司	「大慈八景詩歌」について	国語と国文学 67-6	1990.06
湯之上早苗	【道ゆきぶり】研究のはじめに—伝本・研究概説など—	文教国文学 25	1990.07
角重始	【道ゆきぶり】の世界	文教国文学 25	1990.09
安井久善	「女騎あまた」の記事	季刊ぐんしょ 10	1990.10
中野幡能校注	今川了俊一座千句連歌	神道大系編纂会編「神道大系神社編48 太宰府」(神道体系編纂会)	1991.02
竹内理三 監修・中野幡能編	【宇佐神宮史 史料篇】8	(財団法人宇佐顕彰会)	1991.02
蒲原町教育委員会編	【駿河国蒲原城址発掘調査報告書】	(蒲原町)	1991.05
小和田哲男	今川一門蒲原氏の研究	【駿河国蒲原城址発掘調査報告書・史跡蒲原城址】(蒲原町教育委員会)、のち同【小和田哲男著作集2 今川氏家臣団の研究】(清文堂出版、2001.02)に再録	1991.05
小和田哲男	今川一門入野氏とその末裔	静岡県地域史研究会報 60	1991.06
下津浦忠海	【九州太平記 南北朝戦乱と武士道】	(華書房)	1991.08
森茂暁	【太平記】の基礎知識	同【太平記の群像—軍記物語の虚構と真実—】(角川書店)	1991.10
森茂暁	【難太平記】—今川了俊の【太平記】批判—	同【太平記の群像—軍記物語の虚構と真実—】(角川書店)	1991.10
永原慶二	太平記と直義	季刊ぐんしょ 15	1992.01
山地悠一郎	【太平記】に現れる淵辺伊賀守に関する疑問	季刊ぐんしょ 15	1992.01
川添昭二	難太平記(解説)	【磐田市史史料編】1	1992.03
磐田市史編さん委員会編	【磐田市史史料編】1	(磐田市)	1992.03
荒川良治	室町幕府小番衆豊後田原氏の成立—その歴史過程に関する政治史的考察—	鷹陵史学 18	1992.03
静岡県編	【静岡県史資料編6 中世 2】	(静岡県)	1992.03
稲田利徳	今川了俊「道行きぶり」注釈(一)～(五)	岡山大学教育学部研究集録 89～93	1992.03・07・11、1993.03・07
	了俊歌学書・了俊日記・鹿苑院殿殿島詣記	新編「国歌大観」編集委員会編【新編国歌大観10 定数歌編Ⅱ、歌合編Ⅱ、補遺編 歌集】(角川書店)	1992.04
佐伯弘次他	今川大双紙・今川貞世・今川仲秋・今川範国	【日本史大辞典】1(平凡社)	1992.11
荒川良治	今川了俊失脚小考—【難太平記】の叙述について—	季刊ぐんしょ 19	1993.01
藤本正行	中世の戦傷史料	日本歴史 536	1993.01
石井進	一の谷中世墳墓群の背景としての遠江国府	国立歴史民俗博物館研究報告 50、のち同【石井進著作集5 鎌倉武士の実像】(岩波書店、2005.01)に再録	1993.02
山口隼正	九州探題	【日本史大辞典】2(平凡社)	1993.02
川添昭二	今川了俊と遠江	磐田市史編さん委員会編【磐田市史通史編上 原始・古代・中世】(磐田市)	1993.03
川添昭二・森田香司	文化人今川了俊と霊山寺鐘銘	磐田市史編さん委員会編【磐田市史通史編上 原始・古代・中世】(磐田市)	1993.03
静岡県袋井市教育委員会	【久野城Ⅳ 1993】	(静岡県袋井市教育委員会)	1993.03

石黒吉次郎	【中世芸道論の思想—兼好・世阿弥・心敬—】	（国書刊行会）	1993.04
小川信	了俊大草紙	『国史大辞典』14（吉川弘文館）	1993.04
佐伯弘次	難太平記	『日本史大辞典』5（平凡社）	1993.11
宮井義雄	保暦間記・梅松論・難太平記の視座	同『日本宗教史の中の中世的世界』（春秋社）	1993.12
長谷川端	【太平記】の成立と【難太平記】	同編『新典社研究叢書71 太平記とその周辺』（新典社）、のち同『太平記—創造と成長—』（三弥井書店、2003.03）に再録	1994.04
川添昭二	【九州の中世世界】	（海鳥社）	1994.04
荒川良治	今川了俊の失脚とその歴史的條件—大友親世との関係をめぐって—	九州史学 110	1994.06
稲田利徳 校注・訳	道ゆきぶり	【新編日本古典文学全集48 中世日記紀行集】（小学館）	1994.07
山内謙	九州へ渡った「四国海賊」	南北朝遺文中国四国編月報 6	1995.01
森田香司	歌人今川範国—南北朝に生きた武家の素養—	季刊静岡の文化 40	1995.03
稲田利徳	「かこ」考—今川了俊の語義—	国語・国文解釈 41-3、のち補訂の上、同『人が走るとき—古典のなかの日本人と言葉—』（笠間書院、2010.07）に再録	1995.03
村井章介	日明の政治的連環—一三七六～一三八六年—	【加能史料】会報 8、のち加能史料編纂委員会編『加賀・能登 歴史の窓』（石川史書刊行会、1999.11）に再録	1995.03
荒木尚	室町時代の歌論・歌学—今川了俊の歌論を中心に—	【和歌文学論集】編集委員会編『和歌文学論集 7 歌論の展開』（風間書房）、のち同『中世文学叢考』（和泉書院、2001.04）に再録	1995.03
	道ゆきぶり	蔵中スミ・小早川健編『中世紀行文学選』（翰林書房）	1995.04
島津忠夫 解題	了俊歌学書（影印）	財団法人冷泉家時雨亭文庫編『冷泉家時雨亭叢書 40 中世歌学集、書目集』（朝日新聞社）	1995.04
河村昭一	南北朝・室町期遠江守護沿革に関する若干の問題—とくに分郡守護の存否をめぐって—	政治経済史学 348	1995.06
辻野正人	中世伊勢物語注と『藍染川』—大宰府安楽寺・今川了俊・飛梅説話—	古代中世国文学 7	1995.08
乾安代	九州問答	『俳文学大辞典』（角川書店）	1995.10
荒木尚	言塵集・落書露頭・了俊・了俊下草・了俊日記・了俊弁要抄	『俳文学大辞典』（角川書店）	1995.10
稲田利徳	宗久論—「都のつと」の作者—	岡山大学教育学部研究集録 99	1995
長崎健・濱中修	その後の冷泉家	同『日本の作家22 行動する女性 阿仏尼』（新典社）	1996.02
仲尾宏	一五世紀初頭の日朝通交と文物贈答—世宗期の交流を通じて—	立命館言語文化研究 7-4、のち同『朝鮮通信使と壬辰倭乱—日朝関係史論—』（明石書店、2000.07）に再録	1996.02
下村信博	今川那古野氏再考	名古屋市博物館研究紀要 19	1996.03
川添昭二	【対外関係の史的展開】	（文献出版）	1996.03
小口雅史	広島県安芸津町浄福寺旧蔵「大般若経」奥書に見える津軽十三湊	年報市史ひろさき 5	1996.03
田中新一	了俊から正徹へ—正徹伝の一餉—	【和歌文学論集】編集委員会編『和歌文学論集10 和歌の伝統と享受』（風間書房）	1996.03
	道ゆきぶり・鹿苑院殿殿高詣記・鹿苑院殿西国下向記	山口県編『山口県史史料編 中世1』（山口県）	1996.05
荒川良治	「料所」豊前苅田荘と田原氏能—御料所給付の政治的意味について—	季刊ぐんしょ 33	1996.07
稲田利徳	今川了俊の紀行文と「源氏物語」	中世文学研究 22	1996.08
森茂暁	周防大内氏の渡来伝承について—「鹿苑院西国下向記」を素材にして—	政治経済史学 363	1996.09

町田有弘	参河吉良氏の起源—足利氏の入部以前—	三河地域史研究 14	1996.11
山家浩樹	今川範国と範氏・氏家	『静岡県史通史編2 中世』（静岡県）	1997.03
山家浩樹	今川了俊・仲秋と泰範	『静岡県史通史編2 中世』（静岡県）	1997.03
静岡県編	『静岡県史通史編2 中世』	（静岡県）	1997.03
稲田利徳	八幡信仰と中世和歌—「ひとのひとより」をめぐって—	国語と国文学 74-8	1997.08
小和田哲男	南北朝の内乱と懸川	掛川市史編纂委員会編『掛川市史』上（掛川市）、のち同『小和田哲男著作集3 武将たちと駿河・遠江』（清文堂出版、2001.07）に再録	1997.08
荒木尚	九州探題今川了俊の文学活動—「二言抄」を中心に—	林田正男編『筑紫古典文学の世界（中世・近世）』（おうふう）、のち同『中世文学叢考』（和泉書院、2001.03）に再録	1997.10
小澤富夫編 集・校訂	今川了俊制詞（今川了俊息仲秋制詞 条々）	同『武家家訓・遺訓集成』（べりかん社）	1998.01
武田昌憲	『難太平記』の世界	長谷川端編『軍記文学研究叢書8 太平記の成立』（汲古書院）	1998.03
加美宏	『太平記』と守護大名	長谷川端編『軍記文学研究叢書8 太平記の成立』（汲古書院）	1998.03
山口準正	入寺語録の構造と年表	東京大学史料編纂所研究紀要 8	1998.03
柳田快明	今川了俊の肥後制圧	新熊本市史編纂委員会編『新熊本市史通史編2 中世』（熊本市）	1998.03
柳田快明	南北朝内乱後の熊本	新熊本市史編纂委員会編『新熊本市史通史編2 中世』（熊本市）	1998.03
大森北義	『太平記』の生成と恵鎮持参本—『難太平記』の記事の解釈をめぐって—	梶原正昭・梶原正昭先生古稀記念論文集刊行会編『梶原正昭先生古稀記念論文集 軍記文学の系譜と展開』（汲古書院）	1998.03
山家浩樹	今川了俊と南朝の年代記	日本歴史 600	1998.05
森茂暁	福岡大学総合研究所所蔵「土居文書」(1) —その概要と室町幕府引付頭人奉書案—	福岡大学総合研究所ニュース&レポート Research 9	1998.09
橋本雄	室町幕府外交の成立と中世王権	歴史評論 583	1998.11
森茂暁	福岡大学総合研究所所蔵「土居文書」(2) —今川了俊自筆書状—	福岡大学総合研究所ニュース&レポート Research 10	1998.12
岩坪健	『源氏物語古注釈の研究』	（和泉書院）	1999.02
加藤洋介	了俊・兼良の源氏物語—書陵部蔵源氏物語をめぐって—	説林 47	1999.03
新名一仁	永享・文安の薩摩国「国一揆」について —薩摩国山北国人の反島津闘争—	九州史学 122	1999.05
小林一岳	地域紛争からみた南北朝の「戦争」	歴史学研究 730、のち同『日本中世の一揆と戦争』（校倉書房、2001.06）に再録	1999.11
別府節子	「島山切」について—新出断簡の紹介と二 条良基との関わり—	出光美術館館報 109	1999.11
宮島敬一	中世後期における国人領主と地方寺社— 肥前千葉氏と「公権」の構造—	所理喜夫編『戦国大名から將軍権力へ—転換期を 歩く—』（吉川弘文館）	2000.03
山口準正	薩摩渋谷氏研究の一視点—入米文書と薩 摩渋谷氏—	東京大学史料編纂所研究紀要 10	2000.03
森茂暁	<史料紹介>福岡大学所蔵の中世文書— 「土居文書」—	七隈史学 1	2000.03
伊川健二	諸国王使をめぐる通交制限	遙かなる中世 18	2000.03
近藤好和	今川大双紙	『日本歴史大事典』1（小学館）	2000.07
瀬野精一郎	今川状	『日本歴史大事典』1（小学館）	2000.07
伊井春樹	中世における源氏物語享受史の構築	中世文学 45	2000.08
吉井功兒	『中世政治史残篇』	（トーク）	2000.10

畠山亮	中世後期に於ける暴力の規制について— 戦国期喧嘩両成敗法の成立まで—	法学 65-1	2001.04
都城市史編さん委員会編	【都城市史史料編 古代・中世】	(都城市)	2001.07
山本登朗校注	二言抄	【歌論歌学集成】11 (三弥井書店)	2001.07
高梨素子校注	落書露頭	【歌論歌学集成】11 (三弥井書店)	2001.07
桜井英治	批判者了俊	同『日本の歴史12 室町人の精神』(講談社)	2001.10
錦仁・小林一彦編	【重要古典籍叢刊4 冷泉為秀筆詠歌一体 影印二種・翻刻一種並びに三本校異】	(和泉書院)	2001.10
有川宜博	今川了俊 乱世の文将 千句連歌の奉納	太宰府天満宮文化研究所編『首原道真公御神忌 一千百年大祭記念 天神さまと二十五人』(太宰府 天満宮文化研究所)	2002.03
久保田和彦	今川神原一族と相模国津久井県牧野村	神奈川県立公文書館紀要 4	2002.03
姉崎彩子	近松時代浄瑠璃の作劇法の一特徴—『今 川了俊』より—	国語国文 71-3	2002.03
市沢哲	【難太平記】二つの歴史的射程—室町初期 の『平家物語』を考えるために—	文学 (隔月刊) 3-4	2002.07
新名一仁	文安元年日向国南部国人一揆の意義—守 護島津氏・庄内国人による山東進出とそ の挫折—	都城地域史研究 9	2003.03
新名一仁	日向国人樺山氏の成立過程とその特質— 室町期島津氏「御一家」の由緒と家格—	宮崎県地域史研究 16	2003.03
森茂暁	<講演録>大内氏の興隆と祖先伝承	山口県史研究 11	2003.03
川添昭二	【中世九州の政治・文化史】	(海鳥社)	2003.07
荒木和憲	対馬当主宗貞盛の政治的動向と朝鮮通交	朝鮮学報 189、のち「宗貞盛の政治的動向と朝鮮 通交」と改題して、同『中世対馬宗氏領国と朝鮮』 (山川出版社、2007.10) に再録	2003.10
新名一仁	康暦・永徳期の南九州情勢—無年号文書 の年代比定を中心に—	都城地域史研究 10	2004.03
松本一夫	南北朝期九州守護の關所地処分権につい て—島津氏を中心に—	国史学 184	2004.11
荒木尚	道ゆきぶり・鹿苑院殿殿島詣記	【中世日記紀行文学全評釈集成】6 (勉誠出版)	2004.12
川添昭二	古代・中世太宰府天満宮文芸史の画期	島津忠夫著作集月報 6	2005.01
新名一仁	九州探題今川了俊と島津氏の抗争	都城市史編さん委員会編『都城市史通史編 中世・ 近世』(都城市)	2005.06
徳永健太郎	大宰府安楽寺における留守大島居家の成 立と今川了俊	悪党研究会編『悪党と内乱』(岩田書院)	2005.06
鹿野しのぶ	冷泉為秀の和歌表現—「古歌」を取る詠 法について—	語文 122	2005.06
竹島一希	南北朝連歌の分析—前句の肝要をめぐっ て—	国語国文 74-9	2005.09
平泉澄	平泉澄教授「日本思想史」昭和十七年度 後期講義ノート (その二)	藝林 54-2	2005.10
橋本雄	画僧靈影の朝鮮行	禅文化研究所紀要 28	2006.02
森茂暁	<書評>瀬野精一郎著『人物叢書 足利直 冬』	日本歴史 694	2006.03
佐藤恒雄	詠歌一体 (広本) の諸本と成立 (上)	広島女学院大学日本文学 16、のち同『藤原為家研 究』(笠間書院、2008.09) に再録	2006.07
柳田快明	南北朝期の阿蘇文書について	熊本大学・熊本県立美術館編『阿蘇家文書修復完 成記念 阿蘇の文化遺産』(熊本大学・熊本県立美 術館)	2006.09
佐藤恒雄	詠歌一体 (広本) の諸本と成立 (下)	広島女学院大学国語国文学誌 36、のち同『藤原為 家研究』(笠間書院、2008.09) に再録	2006.12
呉座勇一	奉納型—揆契状と交換型—揆契状	史学雑誌 116-1	2007.01

長谷川端他	『難太平記』上巻・下巻	中京大学文学部紀要 41特集号、同42-2	2007.03、2008.03
鹿野しのぶ	今川了俊の歌論書における「師説」享受の様相—万葉語を中心に—	語文 128	2007.06
中島丈晴	今川了俊の軍事動員と所務沙汰訴訟—九州経営における吹拳システム—	歴史学研究 829	2007.07
新美哲彦	今川了俊筆「源氏物語」について—注記の性格と古筆家の改装—	国語国文 76-8	2007.08
松本旭	了俊と『難太平記』	同『連歌と俳諧—了俊・心敬から芭蕉・一茶へ—』(本阿弥書店)	2007.10
岡本真	外交文書よりみた十四世紀後期高麗の対日本交渉	佐藤信・藤田覚編『史学会シンポジウム叢書 前近代の日本列島と朝鮮半島』(山川出版社)	2007.11
須田牧子	朝鮮王朝—室町政権間外交の成立と大内氏—	佐藤信・藤田覚編『史学会シンポジウム叢書 前近代の日本列島と朝鮮半島』(山川出版社)	2007.11
和田琢磨	『難太平記』研究史の検証—「太平記」作者「忠鎮」「玄恵」説をめぐって—	古典遺産 57	2007.12
佐藤健一	九州探題今川了俊の召還と解任—その経緯と遠駿半国守護補任—	日本歴史 717	2008.02
李領	14世紀の東アジアの国際情勢と倭寇—恭愍王15年(1366)の禁倭使節の派遣を中心に—	研究代表者村井章介『平成15年度～平成19年度科学研究費補助金研究成果報告書 中世港湾都市遺跡の立地・環境に関する日韓比較研究』	2008.03
李領	<庚寅年以降の倭寇>と松浦党—禰王3年(1377)の倭寇を中心に—	研究代表者村井章介『平成15年度～平成19年度科学研究費補助金研究成果報告書 中世港湾都市遺跡の立地・環境に関する日韓比較研究』	2008.03
和田琢磨	今川了俊のいう『太平記』の「作者」—『難太平記』の構成・思想の検討を通して—	日本文学 57-3	2008.03
荒木尚編著	『言座集』—本文と研究—	(汲古書院)	2008.06
峰岸純夫	『中世社会の一揆と宗教』	(東京大学出版会)	2008.07
長谷川端他	『難太平記』索引	中京大学文学部紀要 43-1	2008.10
小木曾千代子	『玄恵法印研究 事跡と伝承』	(新典社)	2008.10
亀田俊和	南北朝前期九州地方施行システムの研究	東北亜細亜文化研究 18	2009.03
松本麻子	『藻蘊草』の引用した歌集・歌論について—今川了俊関係書を中心に—	中世文学 54	2009.06
桃崎有一郎	中世武家社会の路頭礼・乗物と公武の身分秩序	同『中世京都の空間構造と礼節体系』(思文閣出版)	2010.02
小木曾千代子	了俊の非難の焦点—足利殿「降参」の解釈—	国語と国文学 88-3	2011.03

(かわぞえ・しょうじ 太宰府市公文書館構想調査研究委員会顧問/九州大学名誉教授、すじゃく・しんじょう 太宰府市市史資料室嘱託)